

投稿時代の作品から 19才~20才のころ



・左
漫画家を夢見てつくっていた手造り本の表紙
カエルをキャラクターにした表紙

・左下
ナンセンスな4コマ
左の本の中にある漫画

・下
左の本の中にある漫画
(上)居酒屋の入口の雪ダルマ
(下)火星から見た地球の原爆実験の風刺



自画像
一流マンガ家を夢見ていたころ

左の作品は未熟な時代のもので
今から見ると恥ずかしい。視覚的
な情報が多い今の学生の方が技
術的にも優れている。方向が定ま
るまでの浮遊時代の遺物だ。



コロニヤン日記表紙
表紙だけで中身は描いていない



出版しようと夢見ていた手造り本の表紙



映画雑誌に投稿していたスターの似顔絵
・オードリー・ヘップバーン
・エリザベス・テ일러
・キム・ノバック
・マーロン・ブランド

いずれも夜店で買った拡大器をつかい
擦筆や綿でボカシをした。
定着剤がなかったので牛乳を霧吹きして
いた。

どの電化製品があって、当時の日本ではまだ考えられない文化生活
があった。

ダグウッドは冷蔵庫から取り出したハムなんかで5、6重のぷ厚
いサンドイッチを手作りしアゴでささえて歩く。

進駐軍兵士に「ギブ・ミー、チョコレート」とこん願していた子
供には3ちゃんの方が身の丈に合っていて理解が出来た。

昭和22年、手塚治虫先生が「新宝島」という漫画本を出された。

翌年、中学校で初めてこの本を見たわたしは、映画のような画面
構成とユニークなキャラクターのとりこになった。

授業中にひげおやし、ランプなど主人公を模写し、廊下に立たされ、
ムチで打たれた(当時はこんな時代)こともあったが病は膏肓(こう
こう)に入った。高校に入り、新聞の4コマまんがに投稿して初
入選で1000円の賞金をもらった。

夜店で買ってもらった拡大器で、藤村、大下、川上、青田、西沢
などプロ野球選手を描いたり、校長や教頭の似顔絵を送別会のステ
ージで描いて、校長が怒り退席した事件も起こしたこともあった。

大学受験に失敗し二浪したが、その間新聞や雑誌に映画スターの
似顔絵を投稿していた。(上の4点)

将来は漫画家になって自費出版したいと手づくりしていた。

洋画のクロッキー塾に通ったりして出て出合ったのがスタイル画
塾だ。

ここでファッションドローイングを約8年しっかり描き込んだ。
将来、苗を育て木にして花を咲かせようとハングリーの中で人の倍
数を描きガンバった。

上方落語、阪神タイガース、大相撲春場所、天神祭など、葛飾北斎
の「北斎漫画」のひそみにならない今の上方の風俗を意識して描きつ
づけて久しい。

東京に出る機会もあったが大坂に根をおろし、上方を描いてよかつ
たと思う。

中学一年生、苦しかった20才目で見ていた夢が、いま現実となった。
夢は正夢となったが、希望はまだ多くある。

この実現のため、またスタートラインに着く。

「初一念を貫け」これがその言葉です。「最初心に念じ決めたこ
とを最後までやりとおせ」

予備校の先生から送られた励ましのことばを今重く感じている。
この言葉と「夢」をもつことを学生諸君に伝える授業を明日もつ
づけよう。

テレビの仕事をするようになった1974年(38才)。
江戸時代の浮世絵師・東洲斎写楽との出逢いがあり、忘れていた
似顔絵を再び描いた。

その時代というエスプリを絵の中に加えて東京で個展をしてから
似顔絵の仕事が多くなった。

就職準備特集号

面倒見のいい就職室へ来てください

就職活動はうまくいっていますか?
一緒に作戦を練りましょう

就職活動はうまくいっていますか?

不安定な世界経済のあおりを受けて予断を許さぬ形勢ですね。

「こんなときだから、就職室へきてください。私といっしょに作戦を練りましょう」と、就職室長の北太久也さんは呼びかけています。本学の就職室は「面倒見のよい就職室」をモットーにしています。北室長に就職支援への取り組みをうかがいました。

■1年から就職の意識を持つ——就職ガイダンスを繰り上げ実施

——学生の相談にどう対応しているのか、具体的に教えてください。

相談にこられる学生さんにはそれぞれ個別的な対応をさせてもらっています。

どうぞ、自由に、いつでもおいでください。

これまで2年生から実施していた「就職ガイダンス」を昨年
から1年生に繰り上げたのも、
みなさんに早くから就職への意
識を持ってもらい、それに基づ
いて大学生活をどう過ごすか、
を考えていただきたと思ったからです。



就職室室内

就職ガイダンスは、リクルート、毎日コミュニケーションズ、日経
ナビ等の就職情報サイトの会社と連携してみなさんの就職活動に具
体的に役立つ情報を提供します。質疑応答をじっくりにとり、一方的
な講演、演説に終わらないように配慮しています。

■就職エントリーカードの情報をもとに就職活動を支援

これとは別に、大学全体の支援活動のスタートは4月のガイダンス
で3年生全員に「就職エントリーカード」を配布させていただく。エ
ントリーカードには就職希望の有無、その業種や職種を記入してもら
います。私たちはこのカードの情報をもとに皆さんの就職活動を応援
することになります。

用意した業種・職
種はたとえば——美術
館、広告制作、イ
ラストレーター、フ
ァッションデザイナー、
アパレル商品企
画、店舗設計、イン
テリアデザイン、住
宅メーカー、家電・
自動車などのプロダ

クト製品メーカー、アート・商業・報道などのフォトグラファー、w
ebサイト制作、マンガ・クリエイター、アニメーション制作、ゲーム・
メーカー、映画制作、テレビ・ラジオ・CMなどの番組制作、劇団関
係、イベント会社、イベントプロダクション、教員、各種公務員、
その他などなど。

■人気業種は広告・出版、ファッション、IT産業、ゲーム関係などなど

——学生たちの人気業種は?

いまのところ、広告・出版とか、ファッション、IT産業、ゲームと
いったところでしょうか。

——それぞれの業種について簡単に説明してください。

広告・出版関係では、デザインの知識と実践を期待しているよう
ですね。

ファッションはデザイナー、パタンナーなど専門職への求人が目
立ちます。本学のファッション・コースは伝統的にレベルが高いため、
企業側も、質の良い学生を要求する傾向が強いですね。ファッショ
ンの販売方面では、幅広いコースの学生を対象に求人があります。

■大小企業を問わず、求人にも熱心なIT産業界

IT産業界では、大小を問わず、求人があります。ウェブデザイナ
ーを中心にいろんな職種が要求されます。腕に覚えのある学生はむ
しろ、小さな企業をねらうのも自分の才能を発揮できるひとつの手
かとおもいます。

ゲーム関係は、求人も熱心です。人材不足のようです。けれど、
だれでもいいというのではむしろありません。ハードルはかなり高
いですね。

ただ、どの企業も、人材確保に熱心です。会社説明をさせていただ
きたい、という企業が多いです。ということは、景況のよしあし
にかかわらず、人材確保が企業の生命線をにぎっているという気持
ちがどの企業にも強いのでしょう。学生のみなさんにもそれだけチ
ャンスが多いということです。

もうひとつ申し上げたいのは、卒業生が頑張っている企業からは
求人枠を多くもらえます。卒業生の活躍ぶりが後輩の評価も高めて
くれるのですね。



面倒見のいい就職室へきて下さい(右側が北さん)

■相談件数の多いのは 履歴書・エントリーシート・面接マナー

— 学生が相談にくるのはどんな内容が多いですか？

多い三大トリアは、履歴書の書き方、エントリーシートの書き方、面接のマナー、です。

基本的なことがわかっていないケースが目立ちます。手紙の宛名でも、「……様御中」とか、「御中様」などと書く人が多いですね。そういう基本的なことは大事ですので、私の方で指導させていただきます。

人生相談めいたものも結構多いです。女子学生だと、就職は地元でしなさい、という親の希望が目立ちますね。そういうときは、私も介入できないので、親子で十分話し合うように、と助言しています。

■面接で大事な「清潔な身だしなみとマナー」

— そのほか、学生と接していて、注意すべき点があれば教えてください。

私は以前、ホテルに勤務していましたので、服装とか身だしなみ、マナーにはかなり関心を持ちますが、就職の面接などにもこれは重要なポイントだとも思います。

その人がどんなにいいものを内側にもっていても、初対面の短い時間ではわかりません。結局、はじめのうちは、第一印象がものをいいます。これはしかたがありません。学生側もそれに対応しなければなりません。ファッション関係の会社では、面接の時に新しいファッション、個性的な衣服でください、と事前に連絡しているところもあります。

一般的には清潔な衣服が無難ですね。

敬語がいえぬのも、本学に限らず、現代学生に共通しているようです。たとえば、「御社」という言葉がいえません。

■力を入れている面接のリハーサル

いまの企業活動では電話は欠かせません。重要なツールです。就職室では私が企業の人事担当者になって、相談に来た学生には、企業人としての電話のマナーを指導させてもらっています。いわば、面接のリハーサルですが、みなさんは電話をとっているとき、メモをとりませんね。これはいけません。企業の一員となってビジネスで電話をするときは、学生仲間で遊び半分で電話するのはちがいます。相手の言うことをきちんとメモをとっておくことが肝要です。

■わざと意地悪質問で試す

— 模擬面接とは面白いんですね。

ええ、わざと意地悪な態度で質問したりします。こちらが尋ねている点には答えず、的外れの回答をする学生には「キミ、そんなことを聞いていないよ。私の質問をよく聞いて答えないとだめだよ」とはっきりいうことにしています。実際の面接でも、こういう的外れの回答をする人が多いようですが、面接官の心証がわるいのですからね。人の話をよく聞くということは相手に好印象を与える第一歩で大変重要なことです。

また、実感がこもらず、うわべだけでべらべらしゃべる軽すぎる学生には、「あなた、本心で言っていないでしょ。あなたは演技派女優になったほうがいいのでは」なんていうと、泣きそうになる女子大生もいます。でも、実際にそういう面接も多いですから、場慣れしてもらうためにも、こういう工夫をしているわけです。

「あなたのセールスポイントを一緒にみつける手伝いも!!」

反対に、実際以上に自分をアピールできない人もいます。自分はいろいろセールスポイントがあるのに、それを表せない。「あなたのセールスポイントは？」と尋ねても答えられない。詳しく質してみると、その女子大生は喫茶店でアルバイトをしていて、接客マナーを厳しく指導されているのです。そういえば、私の印象でも、言葉づかいが丁

寧で、礼儀正しく、マナーのよさが何となく伝わってくる。

「私は喫茶店でアルバイトをしています。そこはアルバイトでも、接客マナーを厳しくされます。ですから、そのことについては自分なりに自信もっています」とはっきり面接でいえばいいとおもうのです。口先だけでなく、実際にアルバイトをし、そこで勉強したマナーのよさで、いま面接官に対応しているわけですから、説得力もありますよ。

— 自分ではいいことをしているのに気付かないのですね。自分のよさ、セールスポイントがわからないのですね。

そうです。ですから私もお手伝いして、その人のセールスポイントと一緒に考え、つくるようにしています。たとえば、「大学時代にとくに勉強したこと、研究テーマはなにですか？ どんな作品をつくりましたか？ その作品のどんなところに工夫しましたか？ 勉強や授業以外にがんばったことはありますか？ クラブ活動は何をしましたか？ アルバイトは？」みたいなことを尋ねていきます。

また、希望する業種、職種などについても、その理由、動機を聞くようにしていますが、「とくにありません」という人もけっこういますね。

こういうことははやくから準備しておくにこしたことはありません。「就職ガイダンス」を昨年から1年生からに繰り上げた理由もここにあります。

■アルバイト先の地道な努力が実る

居酒屋でアルバイトをしている男子学生も、よく聞いてみると、売上をあげるためにいろいろ苦勞し、工夫をこらしています。大学の専攻を生かしておしゃれなメニューをデザインしたり、店のチラシの絵を書いて貢献している人もいます。こういうことも、私の方からいろいろ聴きただしていかないと、自分からはなかなかいわないのです。

自分ではたいしたことがないとおもっているのかも知れませんが、店のために、具体的に自分の力を発揮しようとする、こういう地道な努力はどんな企業にいても役立ち、その姿勢は企業から大きく評価されるものです。

■電話のかけ方には気をつけよう

このほか、みなさんの話を突っ込んで聞いていくと、学生のいろいろな特徴が具体的に出てきます。

たとえば、社用で電話をするとき、あらかじめ、自分の話したい内容をまとめておくことが必要です。まとめないで、ばくぜんと話さず学生が多いです。

それから、これは少しこまかい専門的な話になりますが、こちらから電話をかける場合、時間帯としては、午前10時～11時半がもっともポピュラーです。つぎに午後2時～4時が一般的です。

逆にいけない時間帯は、朝いちばん、9時ごろ。または正午から昼休み中にかけることですね。

就職活動として会社にコンタクトをとる電話のかけかたは、まず人事担当の部門を相手に告げねばならないのに、電話口に出てきた人を相手に、自分が一方的にしゃべるケースがほとんどです。これではいけませんね。電話をかけた時点からすでに採用テストが始まっていると思ってください。

しゃべる内容にしても、自分であらかじめノートをつくって、想定問答を用意しておくぐらいの準備が必要です。努力が必要です。

■どんな分野に向いているかを総合的に診断する「職務適正テスト」

— 就職ガイダンス、就職エントリーカードのほか、どんな対策をしているのですか？

いくつかをあげていきますと、まず「職務適正テスト」があります。これは1年、2年、3年の希望者全員を対象にしています。内容は「出かけるときに何を着ていくか迷うようなことはめったにない」「人気商品の人気の理由について自分なりに考えてみることもある」「文章を書くような機会は、日常あまりないほう」「ドラマや小説などに出てくる人たちの生き方や考え方に興味を持つことがよくある」「旅行の

企画係と会計係とでは、会計係のほうが合いそう」「身体の調子のことならちょっとしたことでも気にしてしまう」「自分で何かをして、人を楽しませたり場を盛り上げたりするのは上手なほう」「計画や手順ができていないと安心

就職ガイダンスの光景

して物事をすめられない」「何でも人より先に自分がやらないと気がすまないタイプ」など180問をマークシート式に答えてもらうのです。1問10秒程度でありあまり悩まずに直感的に判断していただくことになっています。企業の協力で、専門家が回答をもとに総合的に診断してくれる仕組みです。みなさんが、自分はどんな分野に向いているかを客観的に理解し、希望する業界、業種、企業などをみつけるための参考にしてもらえればと願っています。

■首都圏の情報をキャッチできるユニークな「サイバー就職ガイダンス」

つぎに2、3年次の学生を対象にいくつかの企業と「学内企業セミナー」を実施しています。これは企業が具体的にどのような学生を求めているのかを知る上で大事な機会となっています。

本学のサイバーキャンパスのシステムを活用した「サイバー就職ガイダンス」は、本学ならではの特徴あるものです。首都圏の就職情報を得るのに、新宿キャンパスはむろんですが、宝塚キャンパスの学生もリアルタイム（映像・音声）で首都圏の就職情報に接することができます。東京を中心に首都圏に所属する企業の採用担当者を本学の新宿キャンパスに招き、話していただくのですが、質疑応答も自由です。

成瀬 國晴 (本学講師)

2008年度 第37回

(社)日本漫画家協会賞 文部科学大臣賞 受賞

受賞によせて

成瀬 國晴

2008年度、第37回(社)日本漫画家協会賞・文部科学大臣賞を6月13日にいただいた。

1964年に設立された日本漫画家協会の歴史のなかで1972年に創設された「協会漫画賞」はわが国漫画界の向上を図る目的のもと、優秀作品を顕彰するものである。

これには大賞・優秀賞、特別賞部門があるが、1990年に文部省(現文部科学省)の要請によって文部大臣賞(現文部科学大臣賞)が新設された。

今回わたしがいただいたこの賞は、第1回は手塚治虫先生で、次年から長谷川町子、横山隆一、馬場のぼる、藤子・F・不二雄、やなせたかし、水木しげる、赤塚不二夫、石ノ森章太郎、加藤芳郎、小島 功、ちばてつや、わたなべまさこ、上田トシコ、横山光輝、藤子不二雄(A)、里中満智子、水島新司の諸先生で、いずれもその作品は言うに及ばず知名度も



贈賞式の様子(社)日本漫画家協会賞 文部科学大臣賞

ついでにいえば、宝塚キャンパスの学生も、首都圏の就職活動に本学新宿キャンパスを拠点にしてください。ポートフォリオ(自己作品集)の簡単な手直しなども可能です。

■企業で働く経験のできる「インターンシップ制」には積極的に応募を

企業で実際に働く体験ができる「インターンシップ制」は、大学で学んでいることが社会でどのように役立っていくのかがわかる現場です。企業から寄せられたインターンシップ募集に応じて学生が応募するわけですが、希望すればだれでもというわけにはいきません。選考試験がありますが、ことしもすでに映画関係やアパレル企業へ本学の学生が選ばれて参加しています。これに参加すると、その企業への就職も当然有利になるでしょう。募集は教員と連携して学生の皆さんに周知するようにしますので、どうか積極的に応募するようにしてください。選考試験には私も学生に同行して参りました。

なお、卒業生の皆さんからの就職相談にも応じています。就職活動を再開する卒業生にも求人票を公開しています。履歴書や職務経歴書の書き方なども指導していますし、模擬面接も実施しています。どうか相談にきてください。

■就職活動は明るく・元気に・前向きで

— 最後に学生に望むことを要約してください。

あこがれの企業にはいったのに、入社前に想像していたのとは違う、とやめてしまうケースもよくあるようです。そんなミスマッチのないように、はやくから企業を研究してほしいとおもいます。企業調査は1年から、をモットーに始めてください。

就職活動で大事なことは①明るく②元気に③前向きに行動することです。

就職活動で得たものは、あなたの一生の宝になることでしょう。さあ、きょうからスタートしましょう。応援します。

高い競争力の方々だ。この末席を汚すのだから恐縮の極みだ。わたしが選ばれた理由は「関西で昔から活躍し、40年以上前からテレビにも登場しており、文化、スポーツ、芸能、あらゆる分野の似顔絵は味のある作品に仕立ててある」ということで、全業績が受賞対象になった。プロがプロを選ぶ厳しい賞だ。

わたしが漫画に出会ったのは、物心がついた頃で、二人の兄たちが楽しんでた漫画本を手にして興味をもった。「タンクタンクロー」「ちびわん突貫兵」「のらくろ一等兵」「凸凹(でこぼこ)黒兵衛」「一二三四五六(ひふみよころく)」「長靴三銃士」など枚挙にいとまがないほど記憶の中にある。

戦争がすんで親しんだのは「やねうら3ちゃん」(大阪新聞)と「ブロンディ」(朝日新聞)だ。

前者は南部正太郎先生で後者はアメリカのチック・ヤングだ。3ちゃんは屋根裏に住む青年で終戦当時の貧しい世相を描いているのに比べて、ブロンディは、戦いが終わってなだれ込んできたアメリカ文化を象徴する豊かさを前面に押し出してきた。

ブロンディという名の奥さんと夫のダグウッドとの家庭生活を描いたものだが、その家にはもう電気掃除機や電気冷蔵庫な



受賞あいさつ